



## 2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月13日

上場会社名 堀田丸正株式会社  
コード番号 8105 URL <https://www.hotta-marusho.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平岩 誠  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長 (氏名) 矢部 和秀  
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-3548-8123

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	2,823	3.6	135		95		60	
2023年3月期第3四半期	2,929	2.8	60		30		36	

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 38百万円 ( %) 2023年3月期第3四半期 5百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	1.07	
2023年3月期第3四半期	0.65	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	3,914	2,988	76.3	53.13
2023年3月期	3,694	3,026	81.9	53.81

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 2,988百万円 2023年3月期 3,026百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,700	21.5	50		50		39		0.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	59,640,348 株	2023年3月期	59,640,348 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	3,395,907 株	2023年3月期	3,395,953 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	56,244,398 株	2023年3月期3Q	56,244,395 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	8
3. その他 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類が「5類感染症」へ移行されたことにより、経済活動の正常化が進展し、個人消費の回復が見られた一方、原材料の高騰および為替変動による国内物価の上昇が消費マインドならびに企業活動に影響を及ぼしており、先行きは依然として不透明な状況にあることに加え、中国経済でも、個人消費が持ち直す一方で不動産不況が足かせとなるなど先行き不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループは中長期視点での価値創造を前提とした事業の選択と集中・投資を継続的に推進するとともに投資と構造改革を両輪で推進してまいりました。

事業の選択と集中の一環として、当社グループのコア事業であるファッション事業ならびにマテリアル事業に経営資源を集中させることを目的とし、2023年6月30日にライフスタイル事業のギフト部門を会社分割、同分割会社の株式を譲渡いたしました。またファッション事業においてPB・ODM品を強化するとともにD2C事業への投資を継続、マテリアル事業においては、海外売上拡大に向けた人材投資、取引先の開拓、撚糸の企画開発等を推進してまいりましたが、残暑・暖冬による消費者の購買行動の変化により秋物の初動が遅れるとともに企業活動にも影響を及ぼし、ファッション卸事業ならびにマテリアル国内事業において受注が伸び悩む要因となりました。これらにより、ギフト事業売却による減収分を補うことができず売上高ならびに売上総利益が減少、固定費は減少しましたが売上に係る販売経費の増加とD2C事業への先行投資等により経費は増加いたしました。

この結果、売上高28億23百万円（前年同四半期比3.6%減）、営業損失は1億35百万円（前年同四半期は営業損失60百万円）、経常損失は95百万円（前年同四半期は経常損失30百万円）、また、会社分割による関係会社株式売却益を特別利益に計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失60百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失36百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (きもの事業)

きもの事業は、顧客分析に基づく品揃えならびに非呉服品を含む新規商材の投下による催事の活性化・収益力強化を継続的に推進するとともに、顕在化した需要ならびに潜在的な需要獲得のためオリジナル商品の企画製造に取り組みました。

百貨店部門は、顧客分析に基づく品揃え等の催事施策が進捗した東日本エリアは好調に推移、一方、西日本エリアにおいては昨年5月開催の大型催事を2月に集約することとしたこともあり、前年同四半期対比では大幅な売上減となり、経費の削減は進捗しましたが減収減益となりました。専門店部門は、東西ともに催事施策が奏功し増収増益となりました。この結果、売上高は5億55百万円（前年同四半期比5.6%増）となりましたが収益率の高い百貨店部門の売上構成比減に起因する売上総利益の減少により、営業損失は26百万円（前年同四半期は営業損失20百万円）となりました。

#### (ライフスタイル事業)

ライフスタイル事業は、ヘルスケア部門においては、原料価格の高騰を受け、収益力強化のためOEMの受注に注力いたしました。商品切り替えに伴い当四半期の受注数としては減少、また新商品開発への投資を進めたこと及び東北地区におけるギフト部門を2023年6月30日付けで売却したこともあり減収減益となりました。この結果、売上高1億14百万円（前年同四半期比58.4%減）、営業利益は2百万円（前年同四半期比88.0%減）となりました。

#### (ファッション事業)

ファッション卸事業におけるミセス部門は、残暑・暖冬による秋物の初動遅れやダウンなど重衣料が低調となるも、オリジナル品の受注・販売が堅調に推移し、売上増となりましたが、催事経費、出店加速・MD強化のための人材投資もあり増収減益となりました。ジュニア部門は引き続きOEM受注が好調に推移し増収増益、ホームファッション部門は大手量販店からの受注の期ずれの影響で売上減となりましたが、経費削減ならびに粗利コントロールが進捗し減収増益、製品企画部門は、大口取引先からの受注減により減収減益、ファッションD2C事業はWEB広告投下、リブランド等のマーケティング施策への投資の影響があり増収減益となりました。この結果、売上高11億58百万円（前年同四半期比1.7%減）、営業利益は21百万円（前年同四半期比42.2%減）となりました。

#### (マテリアル事業)

マテリアル事業は、上海事業において前年の都市封鎖の影響が収束、受注が好調に推移し大幅な増収増益となりましたが、国内事業において中国内需向けの受注減、国内アパレル各社からの受注も低調となったこともあり、減収減益となりました。この結果、売上高9億90百万円（前年同四半期比4.1%増）、営業利益は25百万円（前年同四半期比49.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は36億81百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億82百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が4億17百万円減少しましたが、商品及び製品が1億11百万円、短期貸付金が5億円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は2億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ36百万円増加いたしました。これは主に投資その他の資産「その他」が38百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は39億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億19百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は9億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億61百万円増加いたしました。これは主にその他の流動負債が1億31百万円増加したことによるものであります。固定負債は21百万円となり、前連結会計年度末に比べ3百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は9億25百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億57百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は29億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ38百万円減少いたしました。これは主に為替換算調整勘定が19百万円増加したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金60百万円の減少によるものであります。

この結果、自己資本比率は76.3%（前連結会計年度末は81.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月の業績予想につきましては、2022年5月12日公表の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	977,403	559,735
受取手形、売掛金及び契約資産	625,510	584,520
電子記録債権	126,795	178,019
商品及び製品	846,832	958,777
原材料及び貯蔵品	50,451	62,101
短期貸付金	800,000	1,300,000
その他	82,662	49,129
貸倒引当金	△10,194	△10,297
流動資産合計	3,499,461	3,681,986
固定資産		
有形固定資産	91,906	89,496
無形固定資産	130	-
投資その他の資産		
その他	130,609	169,277
貸倒引当金	△27,277	△26,529
投資その他の資産合計	103,332	142,747
固定資産合計	195,369	232,244
資産合計	3,694,830	3,914,230
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	333,749	382,359
電子記録債務	196,989	280,033
未払法人税等	7,585	5,904
その他	104,201	235,874
流動負債合計	642,525	904,171
固定負債		
その他	25,528	21,678
固定負債合計	25,528	21,678
負債合計	668,053	925,849
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,236,693	3,236,690
利益剰余金	28,374	△31,951
自己株式	△389,581	△389,576
株主資本合計	2,975,486	2,915,163
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,055	8,673
為替換算調整勘定	45,235	64,544
その他の包括利益累計額合計	51,291	73,218
純資産合計	3,026,777	2,988,381
負債純資産合計	3,694,830	3,914,230

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	2,929,725	2,823,872
売上原価	2,024,136	1,981,294
売上総利益	905,588	842,578
販売費及び一般管理費	965,948	977,776
営業損失(△)	△60,360	△135,198
営業外収益		
受取利息	31,512	41,054
受取配当金	1,369	1,437
為替差益	225	-
その他	1,293	2,346
営業外収益合計	34,401	44,839
営業外費用		
支払利息	212	356
為替差損	-	1,354
株主優待関連費用	3,310	3,250
その他	563	167
営業外費用合計	4,087	5,130
経常損失(△)	△30,046	△95,489
特別利益		
助成金収入	7,403	-
関係会社株式売却益	-	39,730
有形固定資産売却益	-	1,523
特別利益合計	7,403	41,254
特別損失		
感染症関連損失	13,434	-
特別損失合計	13,434	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△36,076	△54,235
法人税、住民税及び事業税	5,817	6,089
過年度法人税等	△5,212	-
法人税等合計	605	6,089
四半期純損失(△)	△36,681	△60,325
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△36,681	△60,325

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失(△)	△36,681	△60,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△163	2,618
為替換算調整勘定	31,594	19,308
その他の包括利益合計	31,431	21,926
四半期包括利益	△5,249	△38,398
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,249	△38,398



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	きもの事業	ライフスタイル 事業	ファッション 事業	マテリアル事 業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	526,197	274,654	1,178,002	950,871	2,929,725	-	2,929,725
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	526,197	274,654	1,178,002	950,871	2,929,725	-	2,929,725
セグメント利益(又はセグメ ント損失(△))	△20,635	19,586	37,328	50,803	87,082	△147,442	△60,360

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△147,442千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門経費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	きもの事業	ライフスタイル 事業	ファッション 事業	マテリアル事 業	計				
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	555,567	114,328	1,158,547	990,029	2,818,472	5,400	2,823,872	-	2,823,872
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	555,567	114,328	1,158,547	990,029	2,818,472	5,400	2,823,872	-	2,823,872
セグメント利益(又はセグメ ント損失(△))	△26,105	2,345	21,583	25,734	23,557	4,786	28,344	△163,542	△135,198

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△163,542千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門経費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失1億16百万円及び経常損失69百万円、親会社株主に帰属する当期純損失78百万円を計上する結果となり、当社グループの業績は改善傾向にあります。前連結会計年度まで5期連続で営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しております。そのため、過去の業績も考慮し、継続企業の前提に関する注記を開示するまでに至りませんが、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当社グループといたしましては、当期の利益計画において連結営業利益の黒字化を見込んでいるとともに、保有現預金から資金計画上、継続企業の前提に関する不確実性は認められないものと判断しております。